

りべら (Libella) はラテン語でトンボの意味です。あおぞら財団はトンボが飛び交うまちの再生を願って活動しています。

# りべら

2013.1

127

号



## 特集:地域に拡げる 環境のとりくみ

花と緑の西淀川高校 環境教育フェスタ…1

釜石あづまっぺ!通信…2

長屋再生のはなし~古い家にある日本文化を今に繋げて~…3

ぐりとすまのにしよと暮らし…4

エネルギー政策選択とアセスの役割…5

環境保全戦略講座『エネルギー問題と環境アセスメント』開催…6

御堂筋サイクルピクニック 御堂筋に自転車レーンを…7

西田(新)区長来る!~西淀川区のまちづくり 新章スタート~…9

忙中一筆 山田周生…10

西淀川記憶あつめ隊:八木一夫さん…11

ぶらりとゆるりと西淀川めぐり まちなかの緑たち…12

柏里の虹色コラム…12

あおぞら広場…13

廃油からバイオディーゼル燃料を精製する機械を積んだ山田周生さんの車に、廃油を提供する西淀川の子供たち@10/20(土)西淀川高校環境教育フェスタ

写真提供:バイオディーゼアドベンチャー

地域に拡げる環境のとりくみ

# 花と緑の西淀川高校 環境教育フェスタ

『ようこそ花と緑の西淀川高校へ』—西淀川高校の壁面に大きく掲げられた言葉です。西淀川高校では毎年、春と秋に『環境教育フェスタ』を開催。春は菜の花やチューリップの花見と配布、秋は芋掘りと、地域に開放して行っています。10回目を迎える『西淀川高校環境教育フェスタ』を、10月20日に開催しました。特別講演『山田周生さん』と考える被災地から学ぶ私達が出来ること』を始め、芋掘り、廃油キャンドル作りやサイクルCDコマづくりなど、様々な催しが行われ、子どもからお年寄りまで幅広い参加者が集まりました。(参加者170名)清掃活動や廃油回収などの地域と連携をもちながら教育を行う西淀川高校。日頃から地域の深い絆があるからこそのにぎわいですね。

小



春の環境教育フェスタは菜の花の花見やチューリップの配布も



活動を通じ、いろんな人と出会え、人間関係を深められています。藤本翔太郎君(3年)

毎朝の7時30分から清掃しています。大変ですが、学校をきれいにしておきたいので続けています。菊地洋至君(2年)



西淀川高校の環境教育を支える『エコ・コミュニケーションクラブ』の生徒たち。早朝の屋外清掃と、放課後の校内清掃や畑仕事を毎日欠かさず続けています。

## 西淀川高

校では「環境」という科目を設置し、全員必修にしています。新しい時代を切り拓く生徒たちに、新しい生き方を考えさせることを一番の目的にしています。西淀川大気汚染公害を軸に、地域の課題やそれに向けての地域の努力や生き方を通じて、環境を多面的に深く学ぶようにしています。

2005年より、国連のESD(持続可能な開発のための教育)の10年が始まっていますが、本校では菜の花プロジェクトの推進やユネスコスクールへの加入などで教育の中に位置付けています。いま、2013年1月に行われる日中韓の高校生国際会議に向けて、大阪のユネスコスクールの生徒たちで運営の会議の準備作業をしています。



西淀川高校教諭(環境教育担当) 辻 幸一郎さん

## 西淀川高校とあおぞら財団～一緒にとりくんでいます～

財団では、西淀川高校文化祭への出展や『西淀川公害』の授業協力など、長年高校と連携をして環境教育の活動をすすめてきました。2007年、環境省ESDモデルに西淀川が採択され、財団が事務局をつとめる西淀川ESDの活動が始まって以降、高校が取り組む『菜の花プロジェクト』を西淀川ESD参加団体とともに地域に普及しています。今回の高校の環境教育フェスタでも、山田周生さんの特別講演の企画協力や、『キャンドルがナイとinNY学生実行委員会』の大学生と高校の橋渡しをするなど、財団は西淀川での環境教育の要となる西淀川高校の取り組みに全面的に協力しています。

大阪府立西淀川高校 所在地:大阪市西淀川区出来島3-3-6  
<http://www.osaka-c.ed.jp/nishiyodogawa/>



畑で高校生が育てたサツマイモ。子どもと一緒に掘りました。



山田周生さんの講演



廃油回収・リサイクル業者の浜田化学の岡野嘉市代表取締役が『廃油回収をしている一人ひとりがヒーロー』と活動にエール。



大学生も協力。廃油キャンドルの作り方を指導。



大阪西淀ライオンズクラブ会長(右)が高校にチューリップの球根2万円分贈呈。来春が楽しみです。

濡れた葉っぱと乾いた木ではどっちが燃える??

「ばー!」しかも湿ったなのだ。大人は驚きと面白半分、子どもたちが思った通りに火をつけてみることに。下に敷いた乾いた新聞紙が勢いよく燃え、濡れた葉っぱから白い煙がもくもく。燃えたー!と歓声をあげる子どもたちでしたが、みるみる火が消えてしまいました。いつしか濡れた葉っぱや新聞紙を取り除き、乾いた枝を火にいられていました。この行動から子どもたちにとって「火」というものが身近ではないということがひし



地域の子どもたちと火つけからの焼き芋に挑戦した時のこと。大人が「火をつけるにはどんなものが必要?」と問うと子どもたちは「葉っぱ!」

# 釜石あづまっぺ通信

vol. 2

「未来の子どもたちを救うために」

三陸ひとつなぎ自然学校 柏崎 未来

ひしと伝わってきました。

今回の東日本大震災では、津波で濡れたまま体を温めることができず亡くなった方がたくさんいらっしゃいます。山の中で火を燃やし、体を温め、命をつなぎとめる。そういった技術をいざというとき、自分が生き残るための技術として身につけておくべきなのではないでしょうか。

この子たちが大人になり、災害にあったときなど、命を落とすことがないよう、火を起すことに限らず、力強く生きていける術を身につけることが、未来の子どもたちを救うことに繋がっていくのだと思います。

## 三陸ひとつなぎ自然学校

三陸ひとつなぎ自然学校は①被災地支援ボランティアコーディネートや、②支援活動と地域を感じるツーリズムを併せた復興ツアープログラム、③震災の影響により遊び場が少なくなった子どもたちの居場所づくりを中心に活動を展開しています。

※あづまっぺとは方言で「あつまろう!」という意味です

※三陸ひとつなぎ自然学校 Facebookページ <http://www.facebook.com/sanrikuhitotsunagi>

あおぞら財団では西淀川区に「環境住宅」を建てることをめざして取り組んでいる活動があります。「環境住宅」といっても捉え方はさまざまです。その一つとして、長屋再生にまつわるお話を活動メンバーの一人、山本容子さんにお願いしました。



# 長屋再生のはなし

## 古い家にある日本文化を 今に繋げて

株式会社山本木工務店  
山本容子



株式会社山本木工務店 <http://himawari-home.com>  
株式会社大又樹 <http://daisuki.co.jp>

### 本格的長屋改修に関わって6年

本格的な長屋改修に関わって、足掛け6年になりました。7棟17軒になります。それまでは、大工の勘と家主の思いと予算を優先に考えて改修してまいりました。

本格的というのは、構造計算をちゃんとやり一棟全体の計画に基づいて耐震補強をすることです。また今、主に改修している長屋は全部戦前(昭和初期)に建てられた築90年くらいのもので、最初に手がけたのは大阪市北区豊崎町の長屋で、大阪市立大学生活科学研究科



解体中の豊崎長屋

の先生や学生達が調査、設計をおこない、改修作業は出来るところは彼らがやり、工事の部分は私たちが受け持ちました。

### 職人の手仕事に囲まれた生活

長年の間に床や壁に貼られた新建材のベニヤをはがすとその下には床の間やたれ壁には欄間があつたり、天井をはがすと見事に丸太の梁が見え、昔の大工職人の仕事

がわかります。若い職人達にもいい勉強になっていると思います。大工仕事だけではなく、建具や畳、瓦や土壁などの左官の手

仕事が見えます。今の工場製品に囲まれた生活ではなく、手仕事に囲まれた生活は想像しただけで和みます。

### 学生達が改修に関わり、理解を深める

人口増加で増築された



キッチンです。水まわりは現代の生活モードにあわせて工夫

部分を取り除き、もとの形に戻して、前庭や後庭が出来ること採光、通風で季節の変化を楽しめるようになりました。今ではこれを減築と言っています。

この長屋では若い学生達が改修に深く関わったことで、完成した家にシェアをして住み始め、世代をこえたコミュニケーションが出来ますし、日本文化や長屋の路地文化をよく理解出来るようになります。



減築によって、奥のお庭が再現しました

## メリットとデメリット

古い長屋の改修はメリットがたくさんあり、昨年はグッドデザイン賞の特別賞をいただいたほどですが、デメリットもあります。

やはり工事費です。傷んだ部分の撤去や補強は出来上がったからは目に見えないし、出費が大きいので、かかった違和感がないので、かかった工事費用の理解が得にくいのです。工事前が見積もり金額にはほとんどの人が「なんでそんなかかんのか？」です。長屋

は借家が多いので特に建て替えたほうが安くつくと言われるところ

です。またこわし始めてから想定外の傷んだ箇所が出て来たり、少しづつの追加変更の工事費用計算などが画一化しにくいので、同業者も参入しにくいところ

です。二番目には建物のゆがみや木製建具の関係です。すさまじい省エネ

の点ではこれから工夫がいろいろあります。三番目にはねずみ、いもちなどが発生することがあります。後は防火にも気をつけて、類焼しにくい工夫も取り入れた工事の必要があります。

工事費の問題では昨年、古い家のリフォームに国土交通省の補助金が出るのを見つけた。古い家にある日本文化を今に繋げてさらに寿命をのばす取り組みが注目されています。日本の木を使って日本の技で日本の家にこれからも関わって行きたいと思えます。



Green Housing展



あおぞらビル壁面緑化

## ぐりとすまのこしよど暮らし

フェイスブック <http://www.facebook.com/nishiyodogawa.green>  
活動ブログ <http://aozora.or.jp/archives/category/chiiki/green>

「ぐりとすま」にしよう? 略して「ぐりすま」。

グリーン「ぐり」と住まいる「すま」にしよう? はもちろん「西淀川区」のことです。「西淀川区」に環境住宅を建てよう! を目標に活動している「西淀川から住まいと暮らしを考える環境住宅研究会 (Green)」のゆるキャラならぬ、ゆる名称です。右頁で登場いただいた山本容子さんはじめ、建築家、まちづくりプランナー、あおぞら財団のメンバーなどが参加しています。代表: 松富謙一 (CASEまちづくり研究所)

この研究会の発端は、当財団が入居するビル1階を地元の人や学生たちとセルフビルドで改修工事をして、地域交流スペース「あおぞらいコバ」を2010年12月に開設したことです。さらには「緑のタワー」を作ろうと、壁面緑化に着手し、ただいま育成中です。この会では、環境に配慮した住宅づくりに住み手の人といっしょに取り組んでいきたいと考えています。「環境住宅に住みたいな」「緑のある暮らしがしたいな」と思う人は、ぜひ「ぐりすま」へおこしください。

輪

Greenの取り組み  
・まちあるき ・環境住宅の提案 ・勉強会/展示会

# エネルギー政策選択とアセスの役割

NPO地域づくり工房 代表理事  
環境アセスメント学会理事

傘木 宏夫



NPO地域づくり工房

長野県大町市を拠点に、市民からの仕事おこしを理念として活動する市民団体。

<http://npo.omachi.org/>

## 自然エネルギーを利用した地域おこし

NPO地域づくり工房は、くるくるエコプロジェクト(ミニ水力発電の普及)と菜の花エコプロジェクト(菜の花オイルとバイオ軽油の普及)を両輪に活動を展開し、これまでに4つのタイプのミニ水力発電所の設置・運営を経験し、バイオ軽油は年2万リットルを生産しています。加えて、天然冷蔵庫「風穴小屋」を復活活用する活動を含め、自然エネルギーを利用した個性的な取り組みが評価され、全国各地からのエコツアーを受け入れてきました。

こうした地産地消型の自然エネルギーは、位置的・時間的制約が大きく、不効率で採算性に乏しいものです。それだけに、経済効率優先の社会の中では、かえって私たちの活動に発信力が与えられたのだと思います。それぞれに技術的・制度的な課題が山のようにあり、挫折を繰り返しながらの

## 10年間でした。\* エネルギー政策選択の複雑さ

さて、福島原発事故は、エネルギー政策の大転換をもたらしました。「2030年代に原発ゼロ」をめざす政府のシナリオでは、火力・水力を増強ないし維持させつつ、自然エネルギーを含む再生可能エネルギーを飛躍的に成長させることで、エネルギーの安定供給を確保する計画です。

しかし、脱原発のためであれば、健康被害や地球温暖化の主役であった火力発電の増強、自然破壊の象徴である巨大ダム維持、といった選択は容認されるべきなのでしょうか。自然エネルギーも、急激かつ大規模に推進された場合には、むしろ環境破壊や浪費につながるものが懸念されます。ヨーロッパでは、チェルノブイリ事故を教訓に、1980年代からエネルギー政策の転換を図る国々が見られました。しかし日本は、黒船や占領軍

と同様に、災害という外発的な原因により国家の土台が揺らぎ、混迷のさなかにあります。確実なことは「原発ゼロ」を決めた政府が「近いうちに」崩壊することだけです。

## 地域に根ざした市民らしい政策

日本のエネルギー事情は、消費の浪費的あり方とその大都市圏一極集中、そして生産の植民地的あり方に特徴があります。その根本を変えない場合は、せつかく地域で掘り起こされた自然エネルギーも効率化が進む送配電線網への接続を通じて、中央へ吸い上げられることとなります。本来、食料の自給をめざして再生されるべき農地にも、太陽光パネルが敷き詰められてしまうのでしよう。それは私たちがめざす国土の将来像なのでしようか。

エネルギーは社会のある姿を実現するための手段です。どのような社会をめざすのかという根本的な議論が本来は必

\* 詳しくは傘木宏夫『仕事おこしワークショップ』(2012.10刊、自治体研究社)を参照のこと。

要です。そうした議論の担い手として、既成の枠組みにとられない市民活動が、今こそ本領を發揮すべきです。

市民の政策が、独自性と説得力を持つためには、参加型調査学習活動の裏付けが必要です。広範な市民の参加を組織しながら進める調査により、地域の中から情報を引き出し、それに基づく対話と学習により、提言や実践のための計画をまとめていく作業です。エネルギー問題もその現場は地域社会にあります。自然エネルギーは、地域性が強いので、このことは特に重要です。

**市民から広げる政策アセス**  
さて、エネルギー政策のような根幹的で、長期に安定した方針が必要な分野でさえ、政治の混迷が影響して、展望を見出すことが難しくなっています。好き嫌いによる多数決ではない、論理的な合意の積み重ねが重要です。そのためにも、アセス（環境影

響評価）という科学性と民主性を二本柱とするプロセスが、こうした政策選択においても導入される必要があるのです。残念ながら、日本では政策段階でのアセスは実現しておらず、昨年の法改正でようやく計画段階でのアセスの要素が一部取り入れられたという状況です。

エネルギー政策選択をテーマとしたアセスの実現が、多くの市民活動によって共有される獲得目標となり、その実施方法についても市民活動のイニシアティブにより活発に議論されることを期待します。

また、政府や自治体による政策アセスの実施を待つのではなく、市民活動の側も参加型調査学習活動とそれにもとづくワークショップ（作業が伴う会議の方法）によって、この分野での「市民からのアセス」を実践し、自分たちの政策を世論の中に広げていく努力が求められています。

## 私たちの戦略的環境アセスメント実施企画書づくり

環境保全戦略講座『エネルギー問題と環境アセスメント』開催

開催日：10月27日（土）、11月11日（日）／参加者：32人／場所：新大阪

主催：独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金／企画協力：あおぞら財団



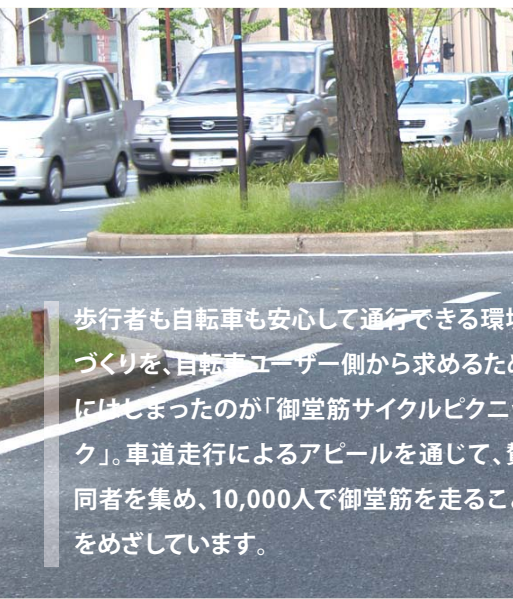
堺太陽光発電所



ワークショップ発表

日本の環境アセスメント法や条例でのアセス対象は大規模事業に限定されています。そのため実施件数が法に基づくもので年間20件（地方自治体条例は約50件前後）と少ないこともあり、市民にとってアセスメントが身近であるとは言い難いのが現状です。そこでこの講座では、社会的関心の高いエネルギー問題をテーマに据え、市民によるアセスメントの活用と提起を知ってもらうため、企画しました。

アセスメントとは何かの学習から始まり、再生可能エネルギーと環境アセスメントについて、関西電力のメガソーラー発電所見学、効率の良い天然ガス発電所への建替えのアセス事例紹介、世界のアセスと日本の課題等を学習。講座のまとめとして最後に『エネルギー政策におけるSEA（戦略的環境アセスメント）の実施企画書をつくろう』というワークショップを、傘木宏夫さんのファシリテートで行いました。挑戦的な試みでしたが3つのグループからはそれぞれ「堺市でのエネルギー政策選択の会議の設定」「学区単位でエネルギー政策を考えエネルギー生産を見える化」「関西で大型天然ガス発電所を建設するための周知」といった個性的な提案がありました。④



歩行者も自転車も安心して通行できる環境づくりを、自転車ユーザー側から求めるためにはしめたのが「御堂筋サイクルピクニック」。車道走行によるアピールを通じて、賛同者を集め、10,000人で御堂筋を走ることをめざしています。

第3回目は9月22日(土・祝)のカーフリーデーに開催しました。御堂筋のアピール走行以外にも、自転車雑貨やフードのマーケット、ハンドサイクルやタンDEM自転車などの試乗会をおこないました。走行は約200人、全体では300人規模のイベントとなりました。



## 初めて手にする乗り物は自転車

御堂筋に自転車専用走行空間の設置を訴えた御堂筋サイクルピクニックも今年で2年目を迎えた。昨年は100台程度の走行であったが、今年は倍の200台以上が出走した。車種も色も参加者も多彩で、珍しい自転車を見つけては子供も大人も大喜びしていた。このイベントを始めたきっかけは、日本では自転車の保有先進国でありながら、走行環境は劣悪で後進国であり、自転車が乗り物としての権利を獲得していないという怒りからである。特に子供たちにとっては、初めて手にする乗り物は自転車であり、子供たちの成長発達を助けるためにも、安全な走行環境を整備する必要があるとの思いからであった。

## 大阪を元気ある街に

自動車には車道があり、歩行者には歩道があるように、自転車には自転車道が必要というのは当たり前の主張であるが、どういった国では、この主張がなかなか受け入れられなかった。しかし、最近になって、交通管理者も道路管理者も動き出し、自転車専用の走行空間の確保に光が見えてきた。御堂筋は大阪を象徴する道路であり、ここに自転車専用の走行空間を設置することは、大阪が人と環境にやさしいことを具体的に示すシンボルとなる。また、自転車を活用した道づくり、まちづくりは、まちの形態を一変させるインパクトをもたらす、大阪を元気ある街に変える効果も期待できる。

## 道づくりと人づくりの両輪で

ただ、現状では、自転車利用者が交通ルールを順守しているかという問題があり、マナーの向上も重要である。これは人づくりの視点であり、御堂筋サイクルピクニックでは自転車の適正利用の啓発にも努めている。自転車の道づくりと利用者の人づくりを両輪として御堂筋サイクルピクニックの取り組みを進めることが肝要である。御堂筋サイクルピクニックが市民に定着し、大阪は、自転車が安全に快適に、そして楽しく利用できる、日本一のまちだと自慢できるようになることを願っている。

# 御堂筋サイクルピクニック 開催にあたって

新田 保次  
自転車文化タウンづくりの会代表  
 大阪大学名誉教授  
 あおぞら財団理事

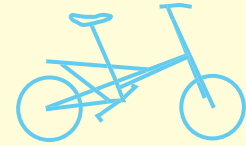




<http://cycleweb.jp/cyclepicnic/>

<http://www.facebook.com/cyclepicnic>

# 御堂筋 サイクルピクニック



—御堂筋を10,000人で走りたい!—

- 開催経過: 2011年10月22日 (第1回)  
2012年4月7日 (第2回)  
2012年9月22日 (第3回)

- 会場: 中之島公園/御堂筋→長堀通→堺筋をアピール走行
- 主催: サイクルピクニック・クラブ/事務局: あおぞら財団

## 「サイクルピクニック・クラブ」メンバー募集中

本イベントはボランティアで運営しており、企画会議「サイクルピクニック・クラブ」を月に1度開催しています。2013年4月に「第4回御堂筋サイクルピクニック」を予定しています。ぜひ、ご参加ください。



## 「御堂筋東側の緩速車線に自転車レーンを」 提案します!

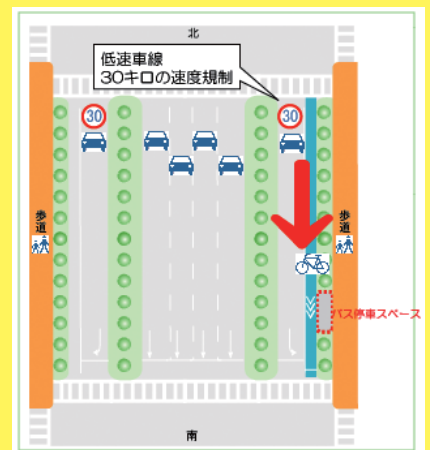
「御堂筋に自転車レーンを」とは言うものの、みなさん、どんな自転車レーンがいいでしょうか? 自転車文化タウンづくりの会※では、このたび、約100人の方にアンケートを実施した上で、御堂筋における自転車レーン設置の提案を作成しました。

大阪のメインストリートの御堂筋は、南向き一方通行で両端2本の緩速車線と4本の本線、計6車線からなります。歩道では歩行者と自転車が入り乱れ、車道は自転車にとっては危なくて走行できないという声が聞かれます。

同会が提案した自転車レーンの内容は、「東側の緩速車線に南向き一方通行で自転車が走行できる空間をつくる」というものです(図参照)。それにあたっては、銀杏並木など緑地帯の構造は大きく変えずに、緩速車線走る車は速度30キロに制限し、駐停車禁止とする、としました。

今後はこの提案内容を広く情報発信し、行政や警察にアプローチすることを通じて、自転車の走行環境をみんなで考えていきます。

※自転車文化タウンづくりの会: 「自転車をいかした文化に満ちるまちづくり」を考え、行動する会として2008年に設立されました。自転車ツアー、写真コンクール、寺子屋などの活動をおこなっています。  
(事務局: あおぞら財団) [http://sky.geocities.jp/cycletown\\_osaka/](http://sky.geocities.jp/cycletown_osaka/)



## 西田淳一区長が、あおぞら財団を訪問

昨年の8月から西淀川区に就任した西田淳一区長が、9月20日にあおぞら財団を訪問しました。大阪市では、市政改革の一環として、2011年12月から区長公募が行なわれ、1461名の応募者（西淀川区は64名）の中から、7月に、市職員だけでなく民間企業出身者など24名の区長が選ばれました。西田区長は、三井物産㈱で長年、海外赴任なども経験した大阪出身の57歳。総合商社で培った経験をもとに、情熱をもって区政に取り組みたいです。

## クリーンにしてグリーンなまちづくり

早速9月19日には、平成24年度の西淀川区の運営方針が出されました。その中には、区の目標として、『川と海と緑に囲まれた「クリーンにしてグリーンなまちづくり」をめざし、西淀川区民と協働して緑化・環境美

化の取り組みを進める』と謳われています。さらに、早くも、10月1日付けで、「まちづくり推進課」内に、新たに「クリーンにしてグリーンなまちづくりグループ」が設けられました。また、区長が直接、区民の声を聞く場として、年齢別に区長タウンミーティングが開催されています。

区民として、今までとは違う発想、スピード感で、区政が変わりつつあることが実感されます。

## これからの西淀川区

あおぞら財団からは、西淀川区での大気汚染公害反対運動の経緯や和解決した際の「あおぞらプラン」、そして、現在の取り組みを紹介しました。

西淀川区の運営方針では、大野川緑陰道路、矢倉緑地、神崎川など、西淀川区の自然資源に改めてクローズアップし、これまでの区の権限を超えて、区民と協働して緑化や環境美化に取り組みとしており、財

団が目指すところと重なる部分も多く、区長との意見交換は盛り上がりました。菜の花プロジェクトをはじめ、これまでも地域の方々を取り組んできた活動が広がっていきやすいと思います。

既に、区割りや学校選択制、地域活動協議会など、日々の暮らしに直結する様々な改革について検討が進められています。

今後、自律した自治体型の区政運営として、タウンミーティングや区民意見の反映、区民による区政の評価など、区民自身が主体的に関わっていくことが求められています。

あおぞら財団がどのように関わっていきよいか？模索中ですが、地域や行政、諸団体等と連携しながら、西淀川区をよりよいまちに

### 【平成24年度西淀川区運営方針】

- ①クリーンにしてグリーンなまちづくりの推進
- ②工業活性化と住工地域の住み分け・共生
- ③基本的住民サービスの充実と福祉行政の強化
- ④自律した自治体型の区政運営
- ⑤歳入確保・歳出削減

していきたいと考えています。西田区長さん、いろいろと大変だと思いますが、これからもどうぞよろしく願っています。  
藤



# 西田(新)区長来る!

~西淀川区のまちづくり 新章スタート~

# 忙中筆

## 地球一周と被災地支援を通じて描く、地域のこれから

あおぞら財団とつながりある人からエッセイを寄せてもらっています。フォトジャーナリストの山田周生さんです。



山田 周生(やまだ しゅうせい)

フォトジャーナリスト。地球を旅しながら世界の冒険レースや先住民などを撮影取材。2007年に廃油のみで地球を走る「バイオディーゼラーアドベンチャー」設立。地球一周完走後、日本一周を始める。東北滞在中、大震災に遭遇。現在も被災地で支援活動を続ける。

### 震災直後 燃料不足の被災地で

「燃料ありませんか？車の燃料が足りないんです。」大震災から数日が経った頃、どの避難所へ行っても返されたのが、この言葉だった。食料と水ももちろん必要に違いないが、次に切迫して必要とされていたのは車や発電

機のための燃料だった。

避難所のほとんどが災害対策本部や沿岸から10km以上も離れている。真冬の寒さの中、体力が低下した体でそんな距離を歩けるはずもない。無線機器も流され、携帯も繋がらない。現場は現状把握もできずに混乱が続いていた。

そんな状況で人々は行方不明の家族を探すこともできなかった。「瓦礫の下にいる家族を探したい」と、ポリタンクをしょって、閉じたガソリンスタンドまで車の燃料を求めて数十キロ歩いてきた人もいた。遺体と対面できるリミットが

震災直後の被災地を走るバイオディーゼラーカー



迫るも、遺体安置所へ行って家族を探す燃料すらないのだ。「動けば何でもいい、とにかく燃料がほしいんだ」会う度に人々が訴えるその様子に、胸がぎゅゅつと締めつけられる思いだった。

僕の車は廃油からBDF(バイオディーゼラー燃料)を作る精製機を荷台に積んでいるので、化石燃料に頼らない。僕らは機動力を活かして毎日被災地をかけずり回り、できる限りの支援を続けた。当然BDFを分ける用意もしていたけれど、出会う車や発電機はすべてガソリンエンジン。ディーゼルエンジンに使用できるBDFは分けることができず、何度悔しい思いをしたことか。もしも防災対策として地域にひとつでもディーゼル発電機と車、廃油とBDF利用のシステムがあった

なら、もっとスムーズな緊急措置ができたはずだ。

### 菜の花で循環型エネルギーのモデルビレッジを

人の生死を目の前にした極限状態で、今まで当たり前であった食べ物や水のありがたみ、燃料や電気のがたみを身をもって知ることとなった大震災。

僕は今まで廃油で地球を走り、世界の自然再生エネルギー事情などを見てきたけれど、この切迫した日々にくれて、より想いが明確になった。「地域で自立するエネルギー、循環型のエネルギーが絶対に必要なんだ」と。あの3・11から1年9か月が経った。僕は被災地に拠点を作り、今も支援活動を続けている。とくに力を入れているのが、地元の人々と共に菜の花を植える活動だ。菜

の花は地産地消エネルギーを象徴する花。そのナタネを被災地にまくことで、荒地の再生や心のケアはもちろん、エネルギー自給のきっかけ作りになればと思うのだ。そしてゆくゆくは地域に根付いた自立循環型エネルギーのモデルビレッジのようなものを、ここ東北から地元の方々と共に発信したい。そう考えている。

残念ながら人々の脳裏から震災の記憶が日々薄れている今日この頃でもここからが本番、踏ん張り時だ。僕らは未来の子どもたちに、どんな地球を残せるのだろうか。大津波と原発事故という歴史に残る大惨事を経て直面している課題。それは被災地だろうと日本のどの地域だろうと違いはない。次世代へ手渡すバトンは、僕たちひとりひとりの手にかかっている。

山田さんの活動をさらに知りたい方はコチラ

HP: <http://biodieseladventure.com/japanese/>

ブログ: <http://space.rgr.jp/bio/>

FACEBOOK「山田周生」で登録

ツイッター@biodiesel\_adven

## 西淀川記憶あつめ隊

Vol.4

西淀川には東京の佃島のルーツになった「佃」という地域があります。左門殿川と神崎川には生まれた島です。今回は佃の歴史を調べている八木一夫さんに昔話を聞きました。

2012年9月19日  
聞き取り



八木一夫さん

八木一夫さんは昭和11年、佃生まれ、佃育ちです。

小学生だった頃は、神崎川が綺麗で、みんなで泳いでいたそうです。近所のがき大将を中心として泳ぎの隊列を組み、小さな子どもがきちんと渡りきれるように、大きい学年の子どもが周りを囲んで泳いでいました。川で泳ぐデビューは小学校4

年生ぐらい。対岸に着くときは、川に流されたようですが、「それも計算して泳いでいたよ」とのこと。八木さんの下の世代からは、川が汚れて泳げなくなってきたそうです。川に囲

まれた西淀川で、川とともに生きていた世代がうらやましく思いました。

現在の新佃公園は、戦争中に建物疎開させられてできた空地の後に作られた公園だそうです。建物疎開とは、空襲による火災の延焼を防ぐ目的で、空地をもうけるために、建築物を強制的に撤去しました。八木さん



新佃公園

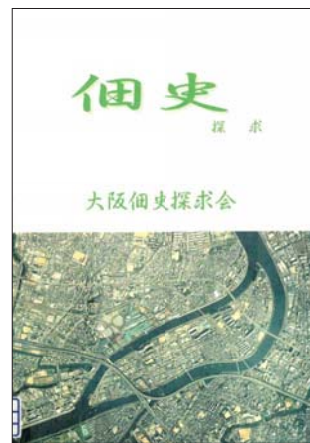
の自宅は、昔は新佃公園にあつたようですが、小学校3年生のときに建物疎開で引越したとき余儀なくされます。当時、佃2丁目には日本グリセリン工業という工場があり、爆薬の原料を作っていました。

八木さんの実家は「青田屋」を営んでいました。いわゆる「青田買い」です。作物が実る前から買い取る交渉をして、天満市場へ売りに行く仕事をおじいさんの代からやっていました。八木さんは、中学校から尼崎にある住友中学校・住友工業高等学校に進みます。この学校は住友の職工を育

てる学校でしたが、戦後の再建途上の経営上の諸事情もあつて1956年3月尼崎市に移管されたことで、八木さんは住友に就職するのではなく、様々な仕事をしながら実家の青田屋を継いだそうです。「佃にも畑が沢山あつた

よ。1丁目のマンションがあるあたりは畑やったなあ」とのことです。今では想像ができないですね。1977年には青田屋を止めて喫茶店を開きます。ちょうど佃コーポの建設が始まった頃で、建築作業員が沢山いたそうです。「喫茶店やっただけど、まるでめしやみたいやっただわ」と笑っていました。佃の変化を見つめてきた八木さんは、喫茶店を閉めた後は佃の歴史の編さんや、東京の佃島小学校と佃小学校の交流事業に携わっています。佃では昔はなまり節を使った箱ずしを食べていたことも教えてもらいました。みんなで食べる機会を計画中です。お楽しみに。

●



佃の歴史がわかる「佃史探求」

burari

gururi

# ぶらりとゆるりと 西淀川めぐり

まちなかの緑たち  
～柏里編～

第5回



西淀川区を歩けば、いろんな緑に出会います。  
育てている人の姿を感じさせてくれるような緑をご紹介します。



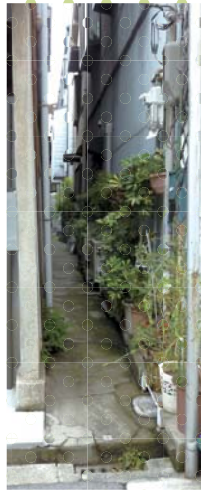
見えないところ  
にもびっしりやわ。



迫力あります！



レトロな雰囲気の  
共同住宅の前やわ〜。



vol.2

## 柏里の虹色コラム

### 地域資源の発見と活用



JR塚本駅前の商店街  
サンリバー柏里  
藤井巖のコラムです！



六地藏スタンプラリー

皆さんはご自分がお住まいの街の地域資源をご存知ですか？観光資源・歴史資源・人的資源など色々な地域資源があります。折角そんな“お宝”が埋められているにもかかわらず、「知らなかった」「興味がなかった」「気づいていたが特に興味をもっていない」など。地域資源を十分に認知せず活用出来ていないのではないですか？

残念ながら地域資源はどこにでもゴロゴロ埋もれている訳ではありません。そして地域資源は誰かしらの支えによって、維持・保存がなされているのです。

私たちサンリバー柏里商店街は毎年、お地藏様の縁で柏里、花川、野里地域の六地藏スタンプめぐりを開催することにより、地域資源の活用に

役立てています。

地域の子供たちや毎日お参りに来られる人々の安心・安全を願い、地藏尊のお世話をされている方に感謝と恩返しを込めて、普段は日の目を浴びる事のない他の地域のお地藏様を皆さんにも知って頂きたいと開催しています。

歴史的建造物、神社・仏閣、環境、自然そして人と人との繋がりなど様々な地域資源があります。もう一度、お住まいの街の地域資源を探し、見直してみませんか？今まで見慣れていた街の風景が、実はとても魅力的な地域資源だったかも知れませんよ。

ディサービスセンター

# あおぞら苑



あおぞら御膳



あおぞらの湯

2006年10月1日にディサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがディサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。

**【お問い合わせ】**

TEL : 06-6475-0111 FAX : 06-6475-0114

URL : <http://aozoraen.com/>

運 営 : NPO法人西淀川福祉・健康ネットワーク

◆あおぞら苑(事業所番号 2771001076)

〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号

開所曜日: 月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数: 1日18人

◆あおぞら苑II(事業所番号 2771001407)

〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号

開所曜日: 月曜日～金曜日 利用人数: 1日20人

## 油は捨てずにリサイクル!!! TEL 06-6411-3457 浜田化学株式会社

トカンぴん2号



いつも、ご協力有難うございます。

### 〈広告募集〉企業・団体・個人の皆さま

より多くの方に「リべら」を知っていただくために、発行部数増にご協力ください。



「リべら」は、あおぞら財団が取り組む環境活動やまちの情報を伝える会員紙として、これまで年4回(季刊)発行し、あおぞら財団会員様をはじめ、公共施設・店舗・各種施設にて配布しています。紙面上では、大阪市西淀川区を中心に、環境問題や地域再生に取り組む様々な方々に登場いただき、環境の取り組みやまちづくり活動の輪をつなぎ、広げていきたいと思っております。今回、より多くの方に読んでいただけるよう、発行部数を増やしたいと考えております(1500部→3000部)。そのための印刷資金として、あおぞら財団の活動趣旨に賛同いただき、ともに環境活動に取り組んでいただける企業・団体・個人の皆さまから「広告費」という形での協賛をお願いできればと思います。いただいた資金は、本「リべら」の紙面の充実・印刷費として活用させていただきます。どうぞ、ご協力お願いします。

**【リべら広告掲載費】**

中面1/3頁: 3万円/回

中面全面: 9万円/回

お問合せ先: あおぞら財団まで



## ありがとうございます

(2012年8月～2012年10月 敬称略・順不同)

### ●お助けボランティア

浅井 真二  
大野 みさ子  
加藤 友規  
川戸 孝彰  
木村 優仁  
桐村 和也  
左成 志郎  
神前 直哉  
中川 舞華  
星 恵利花  
宮前 勇志  
宮本 由貴  
劉 婷

### ●寄附・寄贈者

澤井 余志郎  
山崎 聡  
崎山 比早子  
高田 研  
谷内 久美子  
劉 婷  
南区公害病患者と家族の会  
浅井 真二  
是枝 洋  
川崎 美栄子  
高橋 富男  
吉田 明世  
株式会社神戸製鋼所  
神吉 紀世子  
中村 昌史  
楡谷 美恵子  
北泊 謙太郎  
藤江 めぐみ

## 読者の声

私が中学三年生のころ・・・といいますが  
今から四十年近く前、空前のバイクコ  
ジブームというのがありました。

環境生態学のエコロジーと自転車のバイクを組  
み合わせた造語だったように記憶しています。テレビでは「おらあガ  
ン太だあ」「アイちゃんが行く」女優新井春美さんの自転車紀行や漫  
画では「サイクル野郎」。私もご多分に漏れずどっぷり自転車にハマっ  
てました。

当時は今のように「ロードバイク」とは呼ばずに「ロードレーサー」な  
どと呼んでいわゆる「単車(モーターバイク)」とは呼び名で一線を画し  
ていたように思います。体力が有り余っていた頃で毎日曜日にはフロ  
ントバックに地図を挟み入れ遠出を楽しんでいました。

月日は流れ・・・。

思い出したように自転車を組みだしたのは五年前。

おなかの周りの贅肉が気になる今は長距離のライディングは無理で  
すがスマートなスピード感あふれるロード車がお気に入り。

非常に残念ながら自転車の走行マナーは当時より疑問に思うことが  
あります。

自転車はオシャレでよりスポーティーにはなりましたが乗り手の方も  
自転車の技術の進化と共に歩行者や車社会と共存できる意識を持  
ちたいものです。

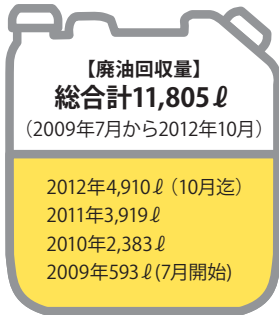
当地西淀川区には他区に誇れる自転車専用道路も整備された緑陰  
道路があります。

安全走行を心がけ自然の風を受けながら昔を懐かしむ今日この頃・・・。

サザンカ色のサイクリスト(西淀川区在住)

## 西淀川菜の花プロジェクト

～エコでつながる西淀川～



現在西淀川区内  
外53箇所、廃  
油を回収してい  
ます。

回収団体募集中。  
詳しくはあおぞ  
ら財団まで。

回収拠点は  
のぼりが目印



西淀川菜の花プロジェクトブログ  
<http://nanohanany.blogspot.jp/>

## 読者の声募集

読者のみなさまの日ごろの活動や、アピールしたい事、またはあおぞら財団  
へのご意見や、リベラのご感想、あふれる西淀川愛など、多種多彩な原稿を  
寄せていただければと思います。文字数は200字です。原稿は、表題を「会  
員コーナー投稿」としてE-mail(webmaster@aozora.or.jp)またはFAX  
(06-6478-5885)でお送りください。皆さまのご参加をお待ちしております。

## りべら No.127 2013年1月号(季刊1日、年4回発行)

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)

編集人:鎗山 善理子、相澤 翔平

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階

TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885

<http://aozora.or.jp/> webmaster@aozora.or.jp

デザイン:(株)バード・デザインハウス

定価:一部400円(郵送料込)

会員の購読料は会費に含まれています。

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

あおぞら財団  
Facebookページ  
「いいね!」を  
押してくださいね。



## 緑道散歩

西淀川区内を貫く全長3.8kmの大野川緑陰道路。  
区民にこいの緑道の風景を紹介します。

固いトゲでその  
身を守るヒイラ  
ギの葉。節分の  
邪気払いとして  
も使われます。ヒ  
イラギは、年とと  
もにトゲのない  
丸い葉も身につ  
けるとか。人間と  
同じですね。



## スタッフツイッター 編集後記



最近知ったけど、じつは前から知っていた歌。それは『小鳥が来る  
街』(歌・島倉千代子)。ええやんコレ。「大阪を緑の街に」がテーマ。  
かつ、大阪市のゴミ収集車が奏でている曲なんだから。クリーンにし  
てグリーンな街にびったり。みなさまの前で披露できるよう練習して  
おきます。



私は疲れたときこそ、体に悪いものが食べたくなります。ラーメン、ピ  
ザ、スナック菓子...でも食後にあったかいお茶を飲んだら、みんな  
チャラになると思ってます。



みんなで守る！みんなで助かる！災害時要援護者の避難を一緒に考えよう！西淀川第2回セミナーで意見交換する参加者たち(2012.10.22)



西淀川区民まつりで子どもたちや地域の方々と廃油キャンドルを作りました。(2012.9.29)

## あおぞら フォトギャラリー

## お知らせ

### 【サイクルピクニッククラブ主催】

#### ●御堂筋サイクルピクニック

日時：4月14日(日)

自転車の正しい利用と、走行環境の整備を求めて御堂筋を走ります。

詳しくは <http://cycleweb.jp/cyclepicnic/>

### 【第41回公害環境デー実行委員会主催】

#### ●第41回公害環境デー

日時：1月26日(土)

ワークショップ10:00~12:00、全体会13:30~16:30

場所：エル大阪南館5Fホール

### 【日本野鳥の会大阪支部との共催】

#### ●矢倉海岸定例探鳥会

日時：2月2日(土)、3月2日(土)、4月6日(土) 毎月第一土曜日

9:30~12:30頃

集合：阪神なんば線「福」駅改札口、解散は矢倉緑地公園

### 【中島水道サロン主催】

#### ●中島水道まち歩き 西淀川区編

日時：3月2日(土)

\*時間、集合など詳細はお問い合わせください

## あおぞら ビル

### 【1F】地域交流スペース「あおぞらイコバ」

会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。

午前：1,000円／午後：1,300円／夜間：1,300円／全日：3,000円

### 【5F】西淀川・公害と環境資料館(エコミュージズ)

西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。

開館日 月曜日と金曜日(10:00~17:00)／要事前電話予約

●いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ

## あおぞら財団とは

1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判(1978~1998)では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階(TEL)06-6475-8885 (FAX)06-6478-5885 電子メール:webmaster@aozora.or.jp <http://aozora.or.jp/>



釣れた！淀川でハゼ釣り大会しました(2012.9.15) 撮影：藤井克己さん

あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。

●賛助会員 会員の方には機関紙などをお送りします。

【年会費】個人：年一口5,000円、学生：年一口2,000円、法人・団体：年一口10,000円

●会費・寄附の振込先

\*郵便振替口座 00960-9-124893

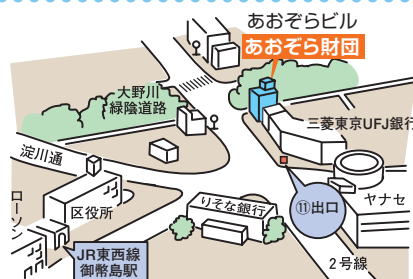
加入者名：あおぞら財団

\*三菱東京UFJ銀行 歌島橋支店  
普通 3764689 口座名義：あおぞら財団賛助会員

\*りそな銀行 歌島橋支店

普通 5288117 口座名義：あおぞら財団賛助会員

## 会員・寄附募集



- JR東西線御幣島駅①出口すぐ
- 阪神電車姫島駅より徒歩10分
- JR神戸線塚本駅より徒歩15分